

子どもの死亡原因のトップは、「不慮の事故」です。交通事故よりも、本来安全なはずの家庭内で多くの事故が起こっています。もう一度わが家の安全チェックをしてみましょう。子どもの事故を防止するには、常に親や家族が保護し、安全な環境をつくるのが大切です。

《いざという時あわてないために》

もし事故が起こってしまったら、まず気持ちを落ち着けて行動しましょう。そのためにも普段からの心構えが大切です。

☆窒息したり、おぼれたら

反応のない乳幼児には、まず心肺蘇生法を一分間行つてから、救急車を呼びます。

☆やけどをしたら

まず、流水等で痛みがなくなるまで十分に冷やします。服を着たままでは構いませんので、早く冷やしましょう。

☆頭を打ったり、打撲をしたら

意識はあるかなど、よく観察し、安静にして打った部位を冷やすなどの処置をしましょう。

☆出血したり、骨折したら

傷口の汚れは洗い流し消毒しましょう。出血部位を止血し、骨折の場合は添え木で固定し、病院へ連れて行きましょう。

* わが家の安全チェック表 *

- ☐ 浴室のドアに、一人で入れないような工夫をしていますか。
- ☐ 浴槽に水をためたまま放置しないようにしていますか。
- ☐ 家具などの鋭い角をガードしていますか。
- ☐ 階段に転倒防止用の柵を取り付けていますか。
- ☐ ストーブやヒーターなどは、安全柵で囲っていますか。
- ☐ 医薬品・洗剤などは、手の届かないところに置いてありますか。
- ☐ ポットや炊飯器は、近づけないところに置いてありますか。
- ☐ たばこや灰皿は手の届かないところに置いてありますか。
- ☐ 包丁やはさみなどの刃物は、必ず片付けていますか。
- ☐ 子どもを一人だけで、家や車に残さないようにしていますか。

◎ 異物を飲み込んでしまったら

中毒110番（日本中毒情報センター）

0990-50-2499

◎ 救急車を呼ぶ場合

119番

始めに「救急です。」と告げ、あわてず、聞かれたことにははっきりと答えましょう。